

平成 27 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
一般	10	05	06	0401	宮沢賢治普及・啓発事業	
総合計画	分野	人づくり				
	政策	3-5	芸術文化の振興			
	施策	2	先人の顕彰			
目的	宮沢賢治に関する情報の収集や提供により、賢治作品や研究成果にふれ、賢治の人と作品に対する理解を深めることができるとともに、研究者・愛好者の交流を深めることができる。					
対象	宮沢賢治学会イーハトーブセンター					
意図	宮沢賢治に関する情報の収集や提供により、賢治作品や研究成果にふれ、賢治の人と作品に対する理解を深めることができ、研究者・愛好者の交流を深めることができる。					
事業概要	…上記目的を実現するための事業手法を記載すること					
宮沢賢治学会イーハトーブセンター事業補助金 ・宮沢賢治に関する資料・情報の収集及び提供 ・定期大会、研究発表会・シンポジウム等の開催 ・企画展の開催 ・会員間の情報交流、研究活動への協力 ・宮沢賢治賞・イーハトーブ賞の選考 企画展 ・「春と修羅」×35人の美大生 4月6日～6月13日 ・加藤昌男百八曼陀羅蔵書票展 6月17日～9月23日 ・宮沢賢治童話陶芸創作展 10月3日～12月16日 ・KAGAYA展「銀河鉄道の夜」宮沢賢治記念館特別展示連携企画展 12月19日～平成28年4月13日						
市民参画の有無 [対象外]						
市民協働の形態		共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定		
		後援・協賛	○ 補助・助成	委託		
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位	区分	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
① 企画展開催回数	回		計画	5	3	
			実績	5	4	
② 賢治セミナー開催回数	回		計画	3	4	
			実績	7	5	
③			計画			
			実績			
成果指標（上記「意図」に対応）		単位	区分	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
① 入館者数	人		目標	35,000	40,000	
			実績	32,452	31,959	
② セミナー出席者数	人		目標	400	500	
			実績	822	803	
③			目標			
			実績			
成果指標の達成度	目標値より高い		○	概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
入館者数は、興味・関心の深いセミナー等や企画展の実施、宮沢賢治記念館のリニューアル等により入館者数の増加を見込んだが、波及効果はあまりなく横ばいとなった。 セミナー出席者数は、創意工夫した企画・立案により、増加した。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	学会は、市民からの提言をもとに、平成2年に「ふるさと創生事業」として設立されたものである。学会は、宮沢賢治の人と作品の普及に多大な貢献をしており、今後も学会が重要な役割を果たすものと思料されることから、公共関与は妥当である。
有効性	○ 妥当である	
	見直し余地がある	
効率性	○ 向上余地がある	興味・関心の深いセミナーや企画展を実施し、広報・PRを充実することにより、来館者数、出席者数の増加を図ることができる。
	向上余地がない	
公平性	○ どちらも削減余地がない	今までに市正職員の配置を無くし、非常勤職員の配置や学会職員を給与補助による配置に変えるなど、最小限の経費と人員で実施していることから、削減できる余地はない。
	○ 適正である	イーハトーブ館条例の設置目的等を踏まえ、宮沢賢治に関する講演会、研究会等に使用するほか、市民の学術・文化の発展に寄与する事業に使用するなど、統一した取扱いをしている。また、目的以外使用の使用料の取扱いを定め、統一的に運用している。
総合評価 …上記評価結果の総括		
宮沢賢治に関する情報拠点として、賢治関係図書・資料・論文等の情報が収集・保存・整理され、この情報を提供をすることにより情報拠点として重要な役割を果たしている。 また、企画展やセミナー、研究会等の開催により、賢治を学ぶ場を提供し、市民を始め全国から多くの方々が来館され、賢治を学びながら、交流が深められている。		

平成 27 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

担当部署 部名 生涯学習部 課名 宮沢賢治イーハトーブ館 担当係長 藤井 廣志 内線 31-2116

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

(単位：千円)

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	10	05	06	0401	宮沢賢治普及・啓発事業

単位：千円

		26年度 決算額(A)	27年度 決算額(B)	28年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		10,938	11,338		400
財源内訳	国・県				
	地方債				
	その他				
	一般財源	10,938	11,338		400

事業期間	○	単年度繰返	期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
------	---	-------	------	-----------------

部重点施策における目標

3-(2)先人の顕彰
宮沢賢治生誕120年記念事業に備えるため、施設更新整備事業を行う。

事業開始の背景・経緯

市民からの提言をもとに、「賢治宇宙・賢治精神の探求の最先端となる場」「単に研究者ばかりでなく、賢治の人と作品に関心のあるすべての人が自由に平等に交流でき、利用できる開かれた広場」にしたいという願いを込めて、平成2年に「ふるさと創生事業」として設立され

事業概要

宮沢賢治学会イーハトーブセンター事業補助金
 ・宮沢賢治に関する資料・情報の収集及び提供
 ・定期大会、研究発表会・シンポジウム等の開催
 ・企画展の開催
 ・会員間の情報交流、研究活動への協力
 ・宮沢賢治賞・イーハトーブ賞の選考

企画展

・「春と修羅」×35人の美大生 4月6日～6月13日
 ・加藤昌男百人曼陀羅蔵書票展 6月17日～9月23日
 ・宮沢賢治童話陶芸創作展 10月3日～12月16日
 ・KAGAYA展「銀河鉄道の夜」宮沢賢治記念館特別展示連携企画展 12月19日～平成28年4月13日

事業を展開する上での課題、留意事項 / 意見・要望等

研究者ばかりでなく、賢治の人と作品に関心のあるすべての人が平等に交流でき、利用できる開かれた広場、情報センターになるよう、創意・工夫した事業展開による学会の活動の活性化と市民へのより一層の情報発信が必要である。

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
 【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】

学会運営経費 (H27学会決算額)		
総会費 総会の開催等		1,383
理事会費 会議開催費		797
委員会費 会議開催費		937
事務局費		982
事務局人件費		3,321
研究費 研究活動費等		570
普及費 企画展、セミナー開催費等		2,625
機関誌発行費 機関誌・会報印刷、通信費等		4,487
ホームページ運営費		53
資料費 図書資料購入費		47
賞選考費		907
合計		16,109

①宮沢賢治学会イーハトーブセンター事業補助金 10,238千円
 補助金算定内訳
 学会運営経費(事務局人件費、企画展示業務委託料を除く。)×1/2+事務局人件費
 (18,036-3,540-1,100)×1/2+3,540=10,238千円

②企画展示業務委託料 1,100千円
 H25まで、企画展示業務委託料は10款5項6目101事業として市で実施
 H26から、補助金とは別途、市から学会へ企画展示業務委託したもの。
 H26:70万円、H27:60万円
 H27からは、記念館で企画展が開催できないことから、記念館の特別展と連携した内容で、学会に委託しイーハトーブ館で開催するもの(50万円)